

本堂向拝彫刻



蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤真弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・高橋 潔・屋代 健
太田匡哉・黒田勇治・山内芳次
近藤龍弘・近藤マリ子・近藤久美子

印刷・株式会社中央印刷



ホームページ



Instagram

ご家族の皆さままでご覧ください

『良き人に近づけば 覚えざるによき人となるなり』

泰忍 弘

今年は一月中旬までは長靴

やブーツも履かずに小雪の冬かと思っていたら一転、近年稀にみる大雪となり、長岡も例年の倍の積雪で全国放送でもたびたび取り上げられ県外の多くの方から雪見舞いのご連絡をいただきました。長岡市内の道路は井戸水を汲み上げた消雪パイプにより雪が降っても比較的生活に不便はないのですが、大雪となると融雪も間に合わず、また除雪車が除雪した雪が道路わきにたまり、普段二車線の道路も道幅が極端に狭くなります。そのおかげで朝の通勤時間帯は行列ができ脇道に入ると対向車とのすれ違いに一苦労です。しかし、そんな道幅の

狭い道路でもお互いに対向車と譲り合いながらすれ違いうのも雪国ならではの気遣いであり、優しさの表れであり、温かい気持ちになることもしばしばです。

道元禅師の弟子である狐雲懐契禅師の書かれた『正法眼蔵随聞記』という語録書があります。道元禅師が日頃弟子たちに説いた言葉や、問答などを克明に筆記し、まとめた書籍です。

隋聞記の中に「霧の中を行けば覚えざるに衣しめる良き人に近づけば覚えざるによき人となるなり」という言葉があります。霧の中を歩いていると知らず知らずのうちに自身の着ている服が湿っていきます。同じように自身が歩む人生の中で良き人、優れた人と接していると自分で意識していなくても自ずと自分自身も良き人、優れた人になっ

ていくものだ。という意味合いです。

我々は生きていく中で数えきれない沢山の方と出会い、様々な方に接しながら人生を歩みます。出会い接する人によつて様々な感情の変化があります。優しさに触れれば自身も優しい気持ちになり、その逆も然りです。

この教えで大切なのは人生の中で良き人、優しさになるべく触れるように努めることではなく、自身が良き人として凶ることなく他の人に優し

さを与えるということです。

今年はずしづりの大雪で私も稲荷堂の屋根に上がり雪下ろしをしました。二百余年の歴史を持つ稲荷堂の建物から雪を下ろしながら今までどれくらいの方がこの屋根に上り雪を下ろしてきたんだろうと考えました。一つの堂宇が現在まで何百年と残ってこれたのは数限りない方々のおかげ様です。我々は縁起の中で生きております。直接お会いしたことはない方々の多くの因縁により今があります。

自分の行いが今生きている誰かの、そして自身が亡くなった後を生きる誰かの助けになるような良き行いを心がけよう。そんなことを考えながら雪下ろしをした大雪の冬でした。



稲荷堂と墓地

世話人並びに 編集委員就任のご挨拶



黒田 勇治

この度、安善寺世話人並びに編集委員を拝命致しました黒田勇治です。

就任に当たり、ご挨拶及び自己紹介をさせて頂きます。さて、私と安善寺さまとの関わりであります。今から三十年程前、平成七年十一月頃からの東堂様、故高橋利春様、清水芳郎様とのお付き合いから始まります。利春様、清水様、私、三人とも出身地が長岡市外のため、近く心からの友達もなく寂しかった



イタリア・ミラノのドウオーモ



タイ王宮・チャオブラヤ川



お稚児さん行列・孫娘

からと思っております。そんな中、安善寺さまの墓地造成のお知らせを聞き付け、三人で話し合い、いつまでも楽しく友達付き合いができるようにと、三人が隣り合った墓地に決めさせて頂きました。爾来、家族ぐるみの付き合いもありました。歴史と格式を感じた安善寺晋山式・退薫式、お稚児さん行列には孫娘も参列させて頂きました。六地藏建立、開眼法要にも立ち会わせて戴き、お陰様でとても楽しく充

実した時間を過ごさせて頂いております。私の自己紹介をさせて頂きます。五泉市出身。前職は松下電器産業株式会社(現.パナソニック)生産技術研究所に勤務してました。その後、昭和五十三年に大阪府門真市から妻、長男と一緒に長岡市に移り住みました。長岡中央病院、次男誕生後、昭和六十年に弁理士試験に合格し、弁理士資格を取得した後、平成元年八月黒田特許事務所を創

立し、平成二十年長男の司法試験合格を機に黒田特許法律事務所と致しました。東京霞ヶ関に存在する日本弁理士会に所属しています。

弁理士という職業をご存じない方が殆どではないかと思えます。弁理士は特許、商標等の知的財産の専門家とされ代理及びその相談をはじめ、自社製品を模倣されたとき、あるいは、他社の権利を侵害していないか攻撃防禦の相談、著作権法、不正競争防止法、輸出入差止申立等の相談、コンサルティング、侵害訴訟に関与することも仕事です。

日本弁理士会の会務歴は平成三十年日本弁理士会副会長、平成十三年常議員、令和七年、八年日本弁理士会監事の任務を拝命し、平成十八年産業財産権制度功労表彰受賞、新潟地方裁判所民事調停委員・新潟家庭裁判所家事調停委員、長岡地区調停協会会長、東京地方裁判所・知的財産高等裁判所専門委員を務めさせて頂き、令和元年春の叙勲の栄を賜りました。

私の趣味は旅行です。殊に、欧州、東南アジア、東アジア旅行です。欧州十三カ国、東南アジア四カ国、東アジア三カ国、各国毎に東西南北方面と複数回に及びました。いずれも妻と二人、大変楽しく有意義な旅行でした。

世話人とは、菩提寺の運営を方丈様と共に支え、お檀家さまを補佐する役割と承知致しております。甚だ僭越とは存じますが、お檀家さまのご指導を戴きながら精一杯務めさせて頂いて戴く所存で御座いますので、なにとぞ変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。合掌



和歌山・那智の滝

【特集】

お父さん 御苦労様でした。

高橋 とも子

令和八年二月三日、高橋利春は七十八歳にて死去致しました。

新発田市生まれ、男四人兄弟の次弟として育ち、高校土木課を卒業すると建設省に入省、新潟県の入省者から一人だけ選ばれて東京の建設大学に入校、一年後に長岡市の建設省に配属されました。



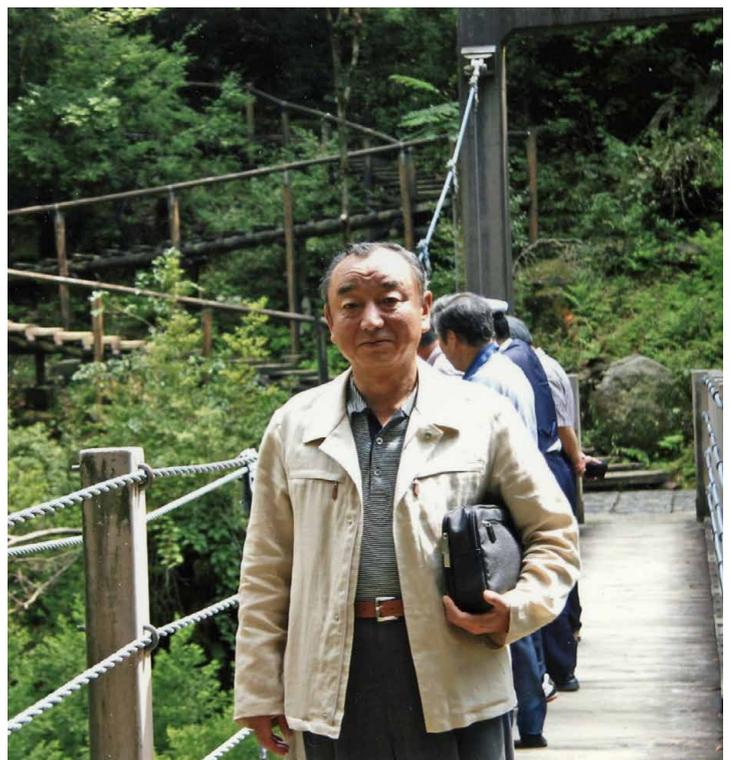
建設省では多くの人々との出会いがあり、多様な知識に触れる機会や、共にお酒を酌み交わし楽しみながら人生の幅を広げる期間であったようです。しかし二年で退職し測量会社に勤務、毎日夜の九時ころまで現場や設計などを頑張りと、帰宅すると軽い夕食をとりすぐに猛勉強。測量士・土地家屋調査士の国家資格をとり、その後も独学で一級建築士・宅地建物取引主任等の資格をとるなど脇で見ても頑張った夫でしたが、大好きなお酒が頑張りの原動力だったと懐かしく思い出されます。



三十歳で独立、五坪ほどの小さな事務所を借りてのスタート。独立して四十八年、共に働き、頑張りの毎日でしたが、平成二十年の春には、土地家屋調査業務により黄綬褒章の栄に浴し、私にとっても喜びであり、美味しいビールを飲んだ事が思い出されます。二十年前、私の母が寝たきりで老健施設に入っている時、農免道路を通っていたら、いきなり「生まれ！」と。何かと思つて止めると車から



降り、道を眺めたり、側溝を覗き込んだり目を細めて幸せそうな表情をしていました。



本人曰く、自分がいたいだいた仕事で設計した道路だそうです。主人が喜んで眺めている姿は、私なりに心から応援しました。

今住んでいる団地も本人が設計した団地ですが自分も住みたいと借金をして求めた家。自分の設計した団地と家で暮らした人生。

お父さんご苦労様でした。あの世でも超熱爛にした大好きな美味しい日本酒を楽しんでください。

安善寺の火防稲荷 「吒枳尼尊天」の紹介

東堂・翠巖龍弘



一月中旬から二月にかけて長岡でも連日全国ニュースになるほどの大雪となり、雪の重みで住宅や車庫、商店街の「雁木」が崩壊するなど大きな被害になりました。

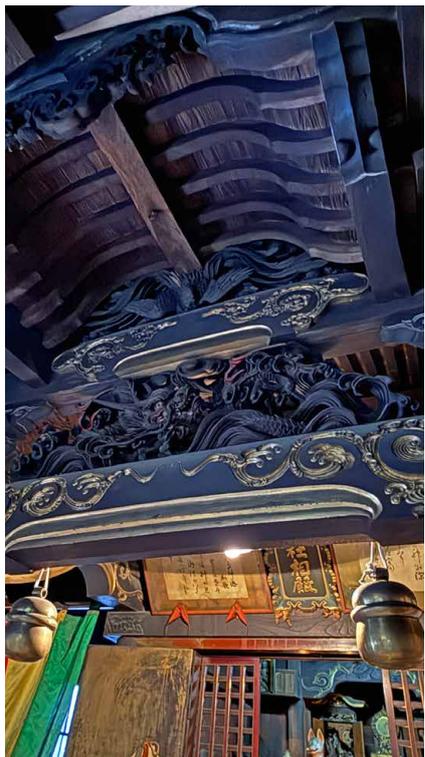
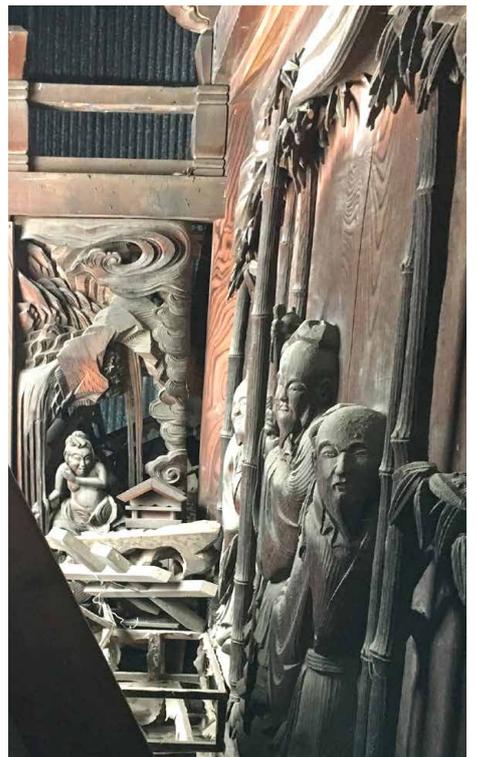
安善寺境内の中でも一番古い稲荷堂は、平成十六年の中大震災により本殿が傾き、拝殿も痛みがひどく、早く修復しなければという状態でしたので、慌てて屋根の雪下ろしをしました。そんなわけで今年の初午は二の午の二月十三

日に変更し、稲荷堂のお勤めは危ないので本堂で初午祈禱をさせていただきました。

安善寺の稲荷吒枳尼尊天は正確な年代は不明ですが、宝暦(一七五一年)〜天保時代(一八四十年)くらいの間に堂宇を建立されたのではと思われます。豊川稲荷の本尊である吒枳尼眞天を勧請、本殿を建立し寺の守護神(鎮守)として祀ったのが始まりと伝えられています。吒枳尼尊天は白狐に跨り、宝珠・剣を持ち、

稲穂を担いだ姿の善神で、様々な利益がある中でも「火伏せ」火防稲荷として多くの人々に篤く信仰されてきました。

明治元年の戊辰の役で、中興開基・三輪家四代によって再建された本堂、三輪家十代の寄進で建立された坐禅堂をはじめ、庫裡などが焼失されましたが、稲荷堂・土蔵・味噌小屋は戦禍をまぬがれました。安善寺廿三世・陪庵和尚の時に現在の本堂の元が再建され、廿四世・大法和尚は吒枳尊天に祈願され本堂造作資金勸募の為に二回に渉って北海道に托鉢行脚され、その折路に迷うと不思議と白狐が現れ道案内をしてくれたと言われていたそうです。無事本堂再建が出来たのも吒枳尼尊天のお陰とお礼に現在の拝殿を建てられ深く信仰され、廿五世・放牛和尚も篤く信仰されたそうです。



昭和二十年八月一日の長岡大空襲では市の中心部がほとんど焼失しましたが、周囲が焼失した中でも不思議と山門以外は堂塔伽藍全てが戦禍を免れ、焼け出された多くの方々

の霊験のお陰と思わざるを得ないと信仰を深くされ、戦後早い時期から稲荷講を作られ、豊川稲荷参拝団参を続けておられました。守護神として安善寺を守り続けてこられた吒枳尊天を祀る本殿の外側には「竹林の七賢」の素晴らしい彫り物もあり、なんとか早いうちに修復できたらと乞い願うものです。

『花まつりにお越しください』

五月五日に開催の「長岡市花まつり」は本年「第一〇〇回記念大会」の年になります。令和三年に発刊した『長岡市佛教会ものがたり』で詳しくは記してありますが、長岡市花まつりの初めは大正十一年です。

戦時中と令和二年のコロナ禍での中止があり今年が第一〇〇回目となります。

古くは安善寺からお練りの行列がスタートして沿道多くの方に見守られながら大手通まで練り歩いた歴史もあります。近年は大手通を歩行者天国にして「花まつり法要」「稚児お育て法要」を毎年五月五日こどもの日に開催しております。



花御堂を背負った白象

第一〇〇回を迎える今年、スローガンに「将来を担うこどもたちの健やかな成長を願い、戦争を起こさない社会の実現をめざして」を掲げて、主会場をアオーレ長岡アリーナに移し、例年の式典と共に特別な催しを企画いたしました。

アオーレ長岡アリーナとナカドマでは一日を通してハンドメイドマルシェやキッチンカーの出店もありご家族みんなで楽しめるかと思えます。是非歴史ある長岡市花まつり第一〇〇回記念大会にお立ち寄りください。



シリーズ
安善寺墨蹟紹介 ②



「感應道交」
かんのうどうじょう

揮毫

新井石禅師
あらいせきぜん

(元治元年〜昭和二年)



仏と私たちの心が静かに響きあい、目に見えなくても通じ合うこと。祈りや真の心があれば、その思いに応えるはたらきが起ころうという教えです。

安善寺よろず掲示板

『寺行事予定』

三月十五日 十一時〜

涅槃会 団子まき

十七日 十時半〜

彼岸入り法要

二十日 十時半〜

彼岸中日法要

二十三日 十時半〜

彼岸明け法要

五月五日 十時半〜

花まつり (アオーレ長岡)

六月十二日 十時半〜

大般若会

六月二十九〜七月一日

団体参拝旅行

「大本山永平寺・總持寺
祖院参拝と永光寺・光禅寺 和倉温泉の旅」

安善寺 庭園型樹木葬 『翠緑の小径』

お盆に樹木葬墓地で御法要

お盆に樹木葬墓地で御法要



葬儀者がいないでも安心(永代供養墓)

【お問合せ】株式会社 放光
フリーダイヤル 0120-811-112

安善寺 樹木葬墓地ご案内ページ
<https://anzenji-jyumokusou.com/>



仏さまのおすそわけ
数珠つなぎフードパントリー

～誰ひとりとり残されない世の中に！お寺を提供の場へ～

食材や日用品の提供にご協力ください！！



* 詳細はお寺にお尋ねください *

協力：新潟県フードバンク連絡協議



『新しい生活が始まるにゃん!』



この冬はいつもより雪が多く、ベランダにできた雪の壁を眺める毎日でした。

家族は境内の除雪や、稲荷堂の雪おろしに苦勞したように、春の陽気で消えていく雪を見てみると嬉しさの反面、自然の圧倒的な力の前に冬の大変な作業は何だったんだと思ってしまうようです。

雪が溶けると色々なものが見えてくるのですが、ベランダには新聞紙に包まれた謎の物体がゴロゴロと…。冬の間、久美さんが冷蔵庫がわりにとせつせと雪山に放り込んでいた野菜達です。子供達がベランダでかまくらを作った時に野菜達があちこちに散らばり、行方不明になってしまったのですが、今になってようやく救い出すことができました。この天然冷蔵庫が夏まであれば、分厚い毛をまとった私たちは涼しく過ごせるのになあ

と思いつつも、春のポカポカ陽気にもワクワクしてしまっています。

私たちが心踊らせているのが真人君です。長かった受験勉強が終わり、四月から高校生となり新しい生活が始まります。楽しみな気持ちと、大学受験勉強が始まる不安もあるようですが、学校が始まるまでは久美さんの小言から

も少しおさらば。今はただのんびりとしていたいようです。悠真君は中学二年生になります。お兄ちゃんの姿を見て今から頑張ってくれるといい



アン



ビビ



のですが、ゲームが大好きな彼を見ていると少し心配になります。褒めて育てる！を目標にしている久美さんですが、小言はまだまだ続きそうです。私とビビは優等生。時々教科書の上に居座って子供達の勉強を邪魔するけれど、許してもらえぬ私たち。可愛さのおかけかしら？小言とは無縁だにゃん!

編集 雑感

令和八年は久し振りの大雪スタートになりました。消雪パイプや除雪作業で交通の麻痺とまでは成まらなかったが、ガタガタ道・狭まった道幅と、車の運転も神経を使う毎日でした。お寺の隣にある稲荷堂も雪に埋まったような佇まいです。三八豪雪の時九州出身の自衛隊員の方が、「この雪はいつになったら消えるんだ」と心配していたので「八月までには消えるよ」冗談で言ったのを「そうか」納得していたのを思い出しました。この雪も春になれば消えてしまいうわけですが今しばらく雪との戦いが続くのでしょうか。春の行事といえばお花見ですが、同じ時期に「花祭り」があります。

お花が美しい時期に由来している、お釈迦様の生誕を祝う行事です。クリスマスは日本でも盛大ですが、仏教国ですのもっと「花祭り」も盛大でもよいのではと思います。

お釈迦様は産まれてすぐ立ち上がり七歩歩いて右手で天を左手で地を指し「天上天下唯我独尊」と話したというエピソードがあります。「自分ほど偉いものはいない」と理解されがちですが、本来の意味は「この世に自分という存在はたった一人しかおらず、誰もが代りのきかない尊い存在である」という教えであり、命あるもの全ての尊厳を肯定する言葉なのです。

五月五日に長岡花まつり第百回記念大会がアオーレ長岡で開催されるそうですので、立ち寄ってみるは如何ですか。

二月早々筆頭総代をされていた高橋利春さんが亡くなられたという訃報が入ってきました。新年恒例の初月忌もご欠席でしたので心配していましたが、こんなに早く旅立たれたとは…

いろんなお寺の行事やこの紙面編集にもいつも積極的に参加されており、いつも熱々の日本酒を楽しまれていたことが思い出されます。ご冥福をお祈りいたします。

もう一つ。編集委員に新しく黒田勇治さんが入られました。新しい眼で取り組んでもらえるものとご期待いたします。

(高橋 潔)

お便り原稿用紙

皆様からの原稿をお待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。

FAX 0258-32-2870

〈原稿送付先〉メール info@anzenji-nagaoka.com

HP にも申込フォームがあります

第一一四号は令和八年七月十日(金)発刊予定です